



国科技第1号  
2012年4月24日

各関係機関の長 殿

公益財団法人 国際科学技術財団  
理事長 矢崎 義雄 (公印略)

2012年ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)  
学生派遣に伴う推薦のお願いについて

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

弊財団は、科学技術において独創的で飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献したと認められる人にジャパンプライズ(日本国際賞)を授与し、顕彰しています。

さて、弊財団ではノーベル賞授賞式の時期(12月初旬)に、毎年2名の学生をスウェーデンのストックホルム国際青年科学セミナー(Stockholm International Youth Science Seminar; SIYSS)に派遣しております。このSIYSSとは、ノーベル財団の協力でスウェーデン青年科学者連盟が主催しているセミナーで、将来の科学技術を担う世界の優秀な若者が一堂に会し、一週間の日程で交流するプログラムです。

毎年各国から二十数名が選抜されますが、弊財団は同連盟より依頼を受け、1987年より参加者を選抜し、派遣してきております。

つきましては、国際交流の機会を与えるに相応しい学生を添付応募要項に基づきご推薦いただきますようお願いいたします。ご推薦頂きました学生につきましては、弊財団として慎重に選考させて頂き、選抜された学生には12月10日に開催されるノーベル賞授賞式への出席の他、他国学生との交流やストックホルム近郊の大学や研究機関への訪問、ノーベル賞受賞者による講演等に参加して頂きます。

ご多用中誠に恐縮でございますが、宜しくお願ひ申し上げます。

敬具



2012年ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)派遣対象分野

2012年のSIYSS対象分野は2013年(第29回)日本国際賞授賞対象分野と同じ分野です。  
(以下ご参照ください)

2013年(第29回)日本国際賞授賞対象分野

「物理、化学、工学」領域

授賞対象分野：「物質、材料、生産」

(背景、選択理由)

従来にない機能を持つ新しい物質や材料の発見、発明、そして高度なものづくり技術が、これまで多くの技術革新を実現し、社会の発展に貢献してきました。物質、材料では、新機能を有する半導体、高分子、天然産生物質、ナノ材料、さらに触媒の開発などが、また、生産面では、計算機援用設計・生産技術、計測技術などを含む新技術が、産業の革新と高度化に貢献してきました。限りある資源を有効に利用し、環境を守りながら持続可能な社会を築くために、新しい機能を持つ物質、材料の開発、さらには画期的な生産技術が不可欠となっています。

(対象とする業績)

2013年の日本国際賞は、「物質、材料、生産」の分野において、飛躍的な科学技術の発展をもたらし、新機能を有する物質、材料の開発及び設計、生産技術の高度化によって、新しい製品や産業を創造し、生活の利便性や安全性の向上に寄与するなど、人類社会に大きく貢献する業績を対象とします。

「生命、農学、医学」領域

授賞対象分野：「生物生産、生命環境」

(背景、選択理由)

人類の生存は、地球上の生物資源をさまざまな形で持続的に利用することなくしては成り立ちえません。しかし、その生物資源を育む地球の生命環境は、急速に劣化しつつあります。これまで、多くの技術革新によって食糧生産性は飛躍的に増大してきましたが、人口はそれをも超えて急速に増えようとしています。こうした地球社会において、かけがえのない生命環境を守り、生物の多様性を保全する環境技術の開発とともに、持続可能な環境調和型の生物生産技術の創造が求められています。

(対象とする業績)

2013年の日本国際賞は、「生物生産、生命環境」の分野において、飛躍的な科学技術の発展をもたらし、人間活動が環境に及ぼす影響の計測評価や対策手法の開発を通じて、生物多様性の維持や生命環境の保全に寄与し、あるいは食糧や有用物質などの生物生産技術の進展によって飢餓や貧困を克服するなど、人類社会の福祉に大きく貢献する業績を対象とします。